BPT（バイオマスプロジェクトチーム）だより No.28

http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm

平成１９年３月２日（金）
バイオマスプロジェクトチーム
（環境生活部資源循環推進課）

１．国・大学・研究機関等との連携について

○農林水産バイオリサイクル研究「施設・システム化チーム」推進会議

２月１６日、農林水産省農林水産技術会議事務局、独立行政法人農研機構農村工学研究所主催による『農林水産バイオリサイクル研究「施設・システム化チーム」推進会議』がつくば市の農村工学研究所で開催され、各農林水産バイオリサイクル研究の成果の報告及び検討・評価が行われました。

本県の香取市で実施している「システム実用化千葉ユニット（山田バイオマスプラント）」については、農村工学研究所の柚山ユニット長からバイオマス多段階利用の有効性やバイオマス再生資源の活用試験実施状況等について報告がなされました。なお、研究成果は１８年度終了後に書籍としてまとめられる予定です。

○第２回地域ＬＣＡ協議委員会の開催（ＬＣＡ：ライフサイクルアセスメント）

２月７日、（独）産業技術総合研究所ＬＣＡ研究センターと千葉県を構成メンバーとする地域ＬＣＡ協議委員会が開催されました。

ＬＣＡ研究センターによる生ごみ及び家畜排せつ物をテーマとした現在の研究の進捗状況の報告後、意見交換等を行いました。

今後は家畜排せつ物利用や廃棄物処理施設に関するデータを提供し、検討を進めていくこととしています。

地域ＬＣＡ協議委員会

２．国の動向について

２月２７日、国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けた工程表について、松岡農林水産大臣から安倍総理へ報告がありました。この報告は、関係１府６省の関係局長から成る「バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議」がまとめたもので、稲わら等の収集・運搬、エタノールを大量に生産できる作物の開発、稲わらや木材等からエタノールを大量に生産する技術の開発等がなされれば、２０３０年頃には６００万キロリットル（原油換算３６０万キロリットル）の国産バイオ燃料の生産が可能としています。

（詳細はhttp://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070227press_1b.pdf）

３．普及啓発活動・その他

○ちば発 産地物語 見本市・商談会

２月１３日、県と食産業連絡協議会主催による「ちば発 産地物語 見本市・商談会」が高輪プリンスホテルにて開催され、バイオマスプラスチックの普及啓発活動を行いました。初の県外開催となった今回の来場者は約９００名でした。

堂本知事も来場し、あいさつ後に各ブースの視察を行いました。その際、バイオマスプロジェクトチームのブースへも来場し、バイオマスプラスチック製品の説明を熱心に聞いていました。

説明を受ける知事

出展ブース全景

○山武市立山武南中学校で展開されるバイオマス環境学習（その６）

「生徒たちによる“バイオマスかべ新聞”づくりと発表会」

ＢＰＴが昨年８月から支援してきた山武南中学校の「バイオマススクール」の取組も終盤を迎え、生徒たちが学習の成果を取りまとめた“かべ新聞”づくりを行いました。３つのテーマでグループに分かれて学習をしてきた１５の班がそれぞれ独自の“バイオマスかべ新聞”を手づくりするもので、全員参加による発表が行われてから、さらに各グループの中から選抜された６班による発表会が２月９日に開催されました。

椎名市長や取組に協力してきた千葉大学生らが見守る中で、代表に選ばれた生徒たちは、これまでのバイオマス環境学習で感じたことや、地域のバイオマスをどう活かしたらよいか、などについて堂々とした発表を行いました。

また、この学習で始めたバイオディーゼル燃料に利用する“廃食用油”の回収は、学校の取組として継続されることとなりました。

バイオマス環境学習に取り組んだ山武南中１年生と千葉大学生たち
（前列中央は最優秀賞を受賞した班と「森林新聞」）